

1 安全確認 (自分の安全確保が優先)

人が倒れるところを目撃したり、倒れているところを発見した場合は、むやみに近づくのではなく、車の往来や、火災の煙、暴力行為や感電などに巻き込まれないよう安全を確保しましょう。安全を確保することは、傷病者を助けることより優先されます。

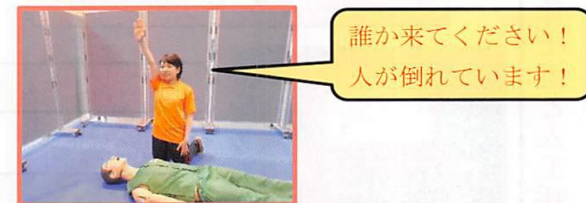
2 反応を確認する

やさしく肩をたたき、大きな声で呼びかける。



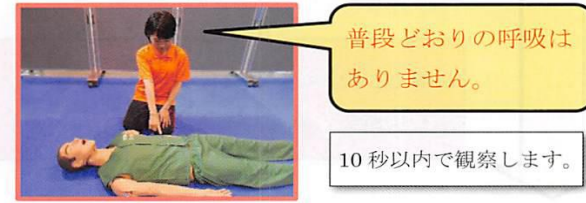
3 人を呼ぶ

反応がない場合や、判断に自信がもてない場合は、心停止の可能性を考え行動し、すぐに応援を呼びます。そして、**119番通報**と**AEDの手配**を具体的に依頼します。



4 呼吸の確認

胸と腹部の動きを確認します。動いていなかったり、「死戦期呼吸」と呼ばれるしゃくりあげるような途切れ途切れの呼吸は、心停止と判断します。迷ったり、わからない時にも心停止と判断します。



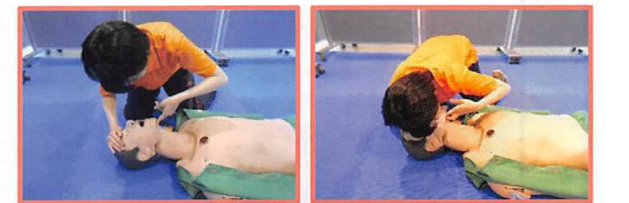
5 ただちに胸骨圧迫を始める

胸の真ん中に「胸骨」と呼ばれる骨があります。この胸骨の下半分を**強く・早く・絶え間なく**圧迫し、圧迫と圧迫の間は、胸が元の高さに戻るよう十分に**圧迫を解除**します。



6 人工呼吸の技術と意思があれば

片手で傷病者の額(でこ)を押さえ鼻をつまみ、もう一方の手の指先であごの先端部、骨のある硬い部分に当てて押し上げます。



患者の胸が膨らむ程度に**約1秒間**かけて、**2回**吹き込みます。その後、再び胸骨圧迫を開始し、救急隊が到着し引継ぐまで、**30:2**のサイクルで続けてください。(胸骨圧迫:人工呼吸)

AEDの使用手順

AEDを持ってくる

AEDの手配を依頼されたり、救助者が自分だけの場合は近くにAEDがあれば自分自身で取りに行ってください。



AEDの準備

心肺蘇生を行っている途中でAEDが届いたら、すぐにAEDを使う準備に移ります。



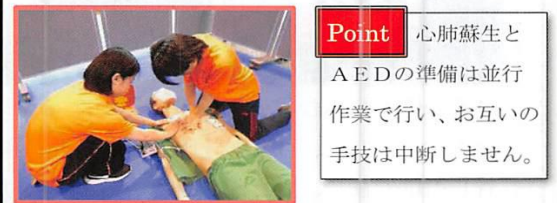
電源を入れる

AEDの電源は機種によって、ボタンを押して電源を入れるタイプと、ふたを開けると自動的に電源が入るタイプがあります。電源をいれたら、以降は音声メッセージに従って操作します。

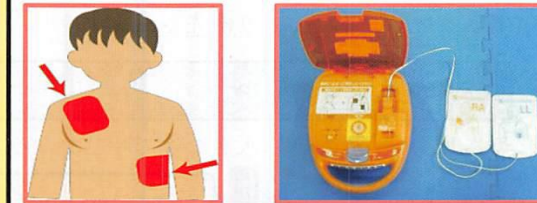


電極パッドを貼りつける

傷病者の胸から衣服を取り除き、胸をはだけけます。ボタンやフックで取り外しは難しい場合は衣服を切ってください。ペースメーカーがある場合は、ずらして貼ります。



AEDのケースに入っている袋から、電極パッドを取り出します。電極パッドや袋に描かれているイラストに従い、2枚の電極パッドを肌に直接貼り付けます。貼り付ける位置は胸の右上(鎖骨の下で胸骨の右)と胸の左下側(脇の下から5~8cm下、乳頭の斜め下)です。



心電図の解析



電気ショックと心肺蘇生の再開

電気ショックの指示がでたら



「ショックが必要です」等の音声メッセージとともに、自動で充電を開始します。充電が完了すると音やショックボタンの点灯とともに「ショックボタンを押してください」等の音声メッセージが流れます。

電気ショック不要の指示がでたら

AEDの音声メッセージが「ショックは不要です」の場合は、ただちに胸骨圧迫から心肺蘇生を再開します。心肺蘇生が不要だという意味ではないので、誤解しないでください。

以降も、救急隊員と交代するまであきらめずに心肺蘇生とAEDを繰り返してください。

強く・早く・絶え間なく・完全解除

胸骨圧迫と人工呼吸は並行して行ってください

強く・早く・絶え間なく・完全解除

胸骨圧迫と人工呼吸は並行して行ってください